

# 平成 30 年 度

(自 平成 30 年 4 月 1 日～至 平成 31 年 3 月 31 日)

## 事業報告書

公益財団法人 京都国際学生の家

## 事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来53年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の82ヶ国から1023名、併設されている研究員用11室を利用した学者、研究者は95ヶ国から3071名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、募金委員会を2017年6月に立ち上げ、本格的な寄付活動を行ってきた。「国際平和」の実現を祈念して、今後も世界の若者に本学寮を提供するため、京都商工会議所の賛同を得て、京都の企業を中心に募金活動を実施した。また京都仏教会の賛同を得て、清水寺、金閣寺、銀閣寺に募金箱を設置して、本学寮の設立時に行われたように、広く一般人への支援を呼びかけてきた。そして、NHKや朝日新聞、毎日新聞、京都新聞の取材を受けて寄付活動の周知を行った。さらに、クラウドファンディングによる寄付活動、ホームページの充実を行って、多様な形での寄付活動を進めてきた。

しかし当初の募金目標の達成が進まない中、建物の耐震強度の補強を遅らせる訳にはいかず、工事内容を再検討し、計画を2期に分割して推進することにした。

1) 本館棟：第1期改修工事として、耐震、最低限のインフラ（給排水、ガス、電気）設備および工期の再検討を行った結果、再見積額9千万円に対して3千万円不足しており、今後の寄付活動などで充当することになった。

2) 研究者棟：第2期新築工事として1億円を募金活動で調達し、第1期の耐震・改修工事後に行うが、時期は未定。但し現棟は1期工事時に取り壊す予定である。

## I. 事業の概況

### 1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

#### (1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	11 室	研究者用にはツインルーム 3 室あり

#### (2) 利用状況

○学生の部（平成 30 年 4 月より平成 31 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	14	京都大学	28
中国	4	NCC 宗教研究所	2
台湾	4	京都女子大学	2
韓国	3	京都産業大学	2
インド	3	立命館大学	1
ドイツ	2	京都府立大学	1
ベトナム	1	京都造形芸術大学	1
バングラデシュ	1	京都工芸繊維大学	1
イギリス	1		
オランダ	1		
ニュージーランド	1		
マダガスカル	1		
ジンバブエ	1		
フランス	1		
合 計	38	合 計	38

○研究者・学者の部

インド	4	フランス	1
韓国	1	ベトナム	3
スウェーデン	2	ベルギー	1
タイ	1	ポーランド	2
中国	2	マレーシア	2
ドイツ	1	メキシコ	1
バングラデシュ	1		
		合 計	22

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一 가족が、ハウスペアレント(学寮管理者)として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会(ハウスコミッティー)が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事(当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など)を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備(共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等)を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19:30~21:00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・

ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のこと、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることでできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成30年4月7日(土)、10月6日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り：平成30年7月7日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：平成30年11月22日(木)

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○小旅行：

前期：平成30年6月9日（土）、10日（日）

神戸方面

豚まん作成体験・果物模様付け体験・人と防災未来センター見学など、多方面にわたり研修をした。

後期：平成30年11月10日（土）、11月11日（日）

舞鶴方面

海の京都発見！をテーマに研修をした。

○セミナー

前期：平成30年5月12日（土）

ダンス体験

後期：平成30年11月10日（土）、11月11日（日）

トリップをセミナー旅行として行った。

○スポーツ大会：平成30年4月14日（土）、平成30年10月13日（土）

年に2度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○ダンスパーティ（レジデント主催行事）：平成30年6月23日（土）

年に1度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チーム」の活動資金を調達する目的もある。

○クリスマス・パーティ：平成30年12月15日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の役員、親しい友人やOB達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○クリーニング・デイ（大掃除）：平成30年7月8日（日）、12月16日（日）

年に2度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場、洗濯室などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、

国際交流に努めた。

### ③ 図書 の 刊行 頒布

会誌等の刊行：「2018年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。特に、昨年及び本年の号は、本学寮の耐震及び改修工事、研究所棟新築についての必要性について、理解して頂く内容の編集が行われた。そこで、学生達の一年間の報告などを別冊として、出版された。

## 2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。

## II. 庶務の概要

### 1) 役員

理事長	内 海 博 司	京都大学名誉教授
常務理事	飯 田 悠 哉	京都外国語専門学校講師
理事	上 村 多恵子	京南倉庫（株）代表取締役社長
	村 田 翼 夫	筑波大学名誉教授
	嘉 田 良 平	四条畷学園大学教授
	吉 村 一 良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	吉 川 晃 史	熊本学園大学准教授、公認会計士
	深 海 八 郎	眺八海倶楽部総支配人
	永 井 千 秋	元神戸大学医工連携コース 客員教授
監事	浅 田 拓 史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折 田 康 広	弁護士
	秋 津 元 輝	京都大学教授
学寮運営委員長	山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂 口 貴 司	三菱電機（株）
	鈴 木 あるの	京都大学講師
	タ ナ ゴ ナ ン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳 也	京都大学教授
	松 橋 眞 生	元ハウス・ファーザー
	長谷川 真 人	京都大学教授
	北 島 薫	元ハウス・マザー
	飯 田 悠 哉	ハウス・ファーザー
	Adriana Hidding	ハウス・マザー
	崔 英 樹	京都市青少年科学センター主事
2) 評議員	岩 崎 隆 二	和晃技研(株)代表取締役社長
	中 島 理一郎	元同志社大学教授
	吉 田 和 男	京都大学名誉教授

西尾英之助	京都日独協会会長
山田祐仁	学校法人辻料理学館
平野克己	日本塗装機械工業会専務理事
葛田正人	葛田内外国特許事務所代表
諏訪共香	日本語教師

3) 顧問

所久雄	社会福祉法人 京都国際社会福祉協力会理事長
神田啓治	京都大学名誉教授
シュペネマン クラウス	同志社大学名誉教授
平松幸三	京都大学名誉教授
森棟公夫	椋山女学園大学教授
柴田光蔵	京都大学名誉教授

4) 職員

氏名	担当事務	備考
樋口洋子	法人事務及び経理事務等	
清水良子	受付業務などの庶務事務	
吉竹慶一	学寮の維持管理（学寮外周り）	

5) 後援会員 （詳細についてはイヤーズブックに記載。）

法人会員 10

個人会員 50

OB会員 980

6) 理事会

回・年月日	議題	結果
第15回 平成30.5.20	1.第14回理事会議事録について 2.平成29年度事業報告について 3.平成29年度決算報告について 4. HdB の募金活動の件 5.学寮運営委員就任の件 6. 報告：諏訪氏評議員就任の件	承認 承認 承認 承認 承認 了承

第 16 回 平成 30.12.7	1.第 15 回理事会議事録について 2.HdB の募金活動の見直しの件 3.その他 同窓会について	承認 承認 了承
第 17 回 平成 31.3.24	1. 第 16 回理事会議事録について 2.平成 31 年度事業計画について 3.平成 31 年度予算について 4.次期ハウスペアレント選任の件 5.HdB の募金活動の件 6.後援会会則、後援会細則の改定、同窓会会則の制定について 7.第 11 回、第 12 回評議員会の開催について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 了承

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（使途指定なし）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

清水暁子、西尾英之助、辻正樹、上田学、澤田正樹、吉村俊之、村崎直美、加藤哲雄、塩田浩平、小西淳二、置田和永、佐藤義彦、富永芳徳、西本太観、成田康昭、前上英二、岩沼省吾、岩田忠久、吉川昭一、木葉丈司、窪田弘、藪田定男、山口忠彦、清水勇、木下研一、岡本紀男、川野家稔、松田敬一、三浦一郎、石田栄子、上西なつみ、福本和久、廣啓司（青隴）、中島理一郎、野村技工株式会社、京都桂川ロータリー（炉辺会合第 1 班）、カンタトーレドメニコ、鈴木武夫、小林多美子、河南晴子、歳森恵美、三原聖則、楠原由明、山田祐仁、田中徳壽、大鹿康廣、小暮智一、杉本正幸、土居英樹、有限会社ハイナン土屋俊宏、匿名、田端喜八郎、杉山喬一、平田康夫、高木泰子、小熊誠、鈴木松郎、山本雅英、村田翼夫、山下進一、上原直三郎、隅田芳男、井上雅博、吉田祐子、岡本修身、大久保嘉高、菊地るみ子、クーテホン、井上富子、宇野賀津子、泉井桂、坂口貴司、河瀬光、村松拓、Shin Mingyeong、大澤美佳、パクチスル、ハスナイン、國津信一、山田祐仁、古川千佳、富田弘子、鎌野幸子、野田和伸、永井千秋、真木恵子、

山本慶一、高木町、吉村俊之、久能賢蔵、陳怡君、ハスナイン・ネハル、ダニエリーとその仲間達

合計 11,234,800 円

(2) 寄附金（研究者棟新築と本館耐震補強・改修工事費に用途指定）

寄附者（敬称略・順不同）

高木泰子、森公子、戸倉三江子、坂本幸子、山岸秀夫、坂野泰治、岡本徳子、鈴木喜六、稲葉カヨ、吉村俊之、加藤哲雄、木原文太左右衛門、古作ケイ子、文字健二、窪田弘、新居哲、谷幸治、福山浩三、古田和子、土屋寿美恵、長尾真、安田佳子、田野かおり、松井宏友、竹田洋子、吉村一良、上田高廣、蔦田正人、多田譲治、高田徳子、岡田徳子、匿名、西井正弘、柳田由紀子、佐藤大介、水野明代、山本攻、平田康夫、京都ロータリークラブ、小島和典、カンタトーレドメニコ、福田勝夫、藪下義文、鈴木松郎、村田翼夫、福山浩三、内海清司、山下進一、近藤敬司、京都洛中ロータリークラブ、Krisada Visavateeranon、置田和永、友松浩、オムロン株式会社、CHANG CHEW CHIN、村田機械株式会社、協和化学工業株式会社、所久雄、内海博司、松原由紀子、古川彰、松浦直子、筒井紀恵、内海博司、永井千秋、斉藤郁子、社会福祉法人サン・アス会吉川昭一、平見松夫、清水勇、内海匡人、福山浩三、讃志会有志、岡本徳子、山田祐仁、上村多恵子、京都仏教会、小島 富美子、山本 裕貴、hukami hachiro、Koide Akiyoshi、所 幸太、fujii yugo、Uno Tomoko、Oshika Yasuhio、ポウエン キンバリー、Fukazawa Andres、Lee Chin、Chang Chew Chin、全泰和、土谷成輝、T Aki、田森行男、寺田 成美、広田すみれ、藤平三穂、うつみひとみ、ヒラノ カツミ

合計 10,494,752 円

(3) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備考
外国人留学生対策事業	京都市	1,000,000円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区分	項目	金額
基本金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000